

MEJIRO UNIVERSITY ECO CAMPUS REPORT

エコキャンパスレポート 2014





目白大学学長 佐藤 郡衛

私はこれまで学校の環境教育の実践を参観させていただく機会が多くありました。その1つで小学校の「総合学習」の「リサイクル」がテーマの授業を紹介します。ビン、カン、ペットボトルを素材に学習していました。当時ペットボトルが急速に日常に浸透していましたが、その回収が今ほど進んでいませんでした。日常生活でペットボトルを使うことが多いのですが、学校の学習では「リサイクルのためにビン、カンを使うのがいい」といった発表をしていました。学校の環境学習が実際の生活とは切り離され、規範的な答えに終始してしまうという問題があるように思いました。学校での学習を進めれば進めるほど、たてまえや規範的な答えになっていくことがあります。こうした形式的な学びから実生活の改善に結びつけるような学びへと展開していくことが環境教育の課題です。私たちの生活をいかに変えるかがいま問われているように思います。このレポートがその一助になればと期待しています。

ECO PRODUCTS | エコプロダクツ

2014年12月11日～13日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2014」に本学が出展しました。エコプロダクツは日本最大級の環境展示会とあって、企業はもちろん、自治体、NPO/NGO、大学・教育機関など、747社・団体が出展、3日間で16万人を超える来場者でたいへん賑わいました。目白大学は2回目の出展。ブースでは「全学的エコキャンパスづくりへの提案」をキャッチフレーズに、最近の本

学のハード・ソフト両面からのエコキャンパスづくりに関するパネルを展示、学生・教職員が全学を挙げたエコへの取り組みや学科・ゼミのユニークなエコ活動について紹介しました。とくに今回は、人間学部子ども学科が授業の一環として行った芋掘りの際に発生する芋づるを使い、クリスマス用リースを作って楽しむ遊びを本学の学生たちが実演し来場者の注目を集めました。



エコプロダクツ2014に出展

ECO CONTEST | エココンテスト

Ecoコンテストは、全学参加型の「エコ意識」向上キャンペーン。2011年度スタート以来、毎年違ったテーマでエコ意識を競いあう学内行事として、すっかり定着しています。2014年度は「森の学園」五七五大賞と題して、「緑ゆたかなキャンパスライフを謳いあげよう!」との呼びかけのもと、目白学園の恵まれた自然環境をテーマにした五七五を募集。俳句風あり、川柳・標語ありで、244点もの楽しい力作が寄せられました。その中から選考委員会によって選ばれた「大賞」は5作品、「佳作」20作品。発表と表彰が行われた桐和祭(学園祭)会場では、作品が記された緑の葉と樹木のディスプレイが来場者の目を楽しませていました。

受賞作品から

- 緑の中 木漏れ日の下で 走る君
- 夕焼けに みどりのメジロも 黄金色
- キャンパスを 飾るアクセは 緑の木
- ぶーぶーちゅんちゅんざらざら みどりの歌
- 炎天下 暑さささざる 森日傘
- 早朝の 緑のしずく ふわふわと
- みどりの森 目白ワールド おいでやす
- 木々たちのおしゃべり聞こえる 目白の森
- 桐の下 きりなく響く キリギリス
- 坂登り 見えてくるのは 学ぶ森



コンテストポスター



桐和祭展示

FACILITIES | 環境のための設備

「緑のカーテン」のゴーヤを植栽

目白学園新宿キャンパスは都心にありながらも豊かな緑に包まれており、「森の学園」の愛称で親しまれています。キャンパス内に生育する樹木・草花は700種類以上にもものぼり、定期的な除草・剪定・施肥によって植栽管理され、大切に保護されています。一方、広大な敷地をもつ岩槻キャンパスもキャンパス全体が緑の中にあり、並木や木立、雑木林など、その恵まれた環境はかけがえのない財産として大切に

守られています。2011年度から毎年夏に、新宿キャンパス内に「緑のカーテン」のゴーヤを植栽しています。2014年度はスーパーゴーヤなど4種類のゴーヤを54本育てました。毎年何百個という多くの実をつけるので、中高(目白研心中学校・高等学校)のカフェテリアでゴーヤ料理として提供するなど、単なる日よけだけでなく有効利用を模索しています。



緑のカーテン

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー
- 省エネ照明 (LED、インバーター式蛍光灯)
- 氷蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報

緑化対策

- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング
- ピオトープ

省資源対策

- 再生紙の利用
- 天然石鹸の使用
- 空き缶回収装置
- 中水道システム

その他の対策

- ごみの分別
- 喫煙所以外の全面禁煙
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止



太陽光発電



屋上緑化



高効率空調機



中水道システム



ピオトープ

ECOアクションは、学生自らが企画し実践する環境プロジェクト。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか?地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、2014年度は11件の意欲的な応募がありました。その「環境マインド」と「アクション性」が評価され採択された企画8件(3件はリタイア)を紹介します。桐和祭(学園祭)ではECOアクションの成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。

2014年度 採択・実施企画一覧

1. ECOかるたを作ろう〜24mountain〜(子ども学科 西山ゼミ)
2. エコキャップ運動(目白エコプロジェクトクルー(MEPC))
3. J1 プロサッカークラブでエコボランティア活動に参加(地域社会学科有志)
4. それゆけ!うみごみ隊(児童教育学科 うみごみ探検隊!)
5. 「日本の食料廃棄物の問題」自分たちで出来ること・廃棄物から野菜を作ろう!(児童教育学科 リサイクルプロジェクト〜ごみから野菜を作る〜)
6. 目白大学のエコを発信する(地域社会学科 飛田ゼミ)
7. 浴衣で打ち水 in 中井・涼しくなって温暖化を防止しよう!(ちえの小道)
8. 割り箸で炭を作ろう!(地域社会学科 飛田ゼミ)



サッカーボランティア



浴衣で打ち水



エコ発信



炭作り

新宿エコワン・グランプリ受賞

2015年3月14日、新宿中央公園内にあるエコギャラリー新宿(新宿区立環境学習情報センター)において、新宿区主催「新宿エコワン・グランプリ」の表彰式が行われ、社会学部地域社会学科の飛田ゼミが平成26年度「新宿エコワン・グランプリ」グループ部門チャレンジ賞を受賞しました。目白大学としては平成24年度「事業者部門優秀賞」に次ぐ2度目となった今回の受賞。表彰式では、飛田ゼミを代表して、学生2名に吉住健一新宿区長より賞状と副賞が授与されました。「環境問題の視点から地域社会の未来を創造する」ことをゼミのコンセプトに掲げて、「地域連携と異業種交流による環境アクティブラーニングの開発」をテーマに、自治体、市民団体、企業、NPOなど、地域や異業種との連携・交流を図りながら、新しい環境学習、現場学習、アクティブラーニングの実践を積み重ねてきた1年間の活動成果が評価され今回の受賞となりました。



新宿エコワン・グランプリ受賞

「新宿の森・あきる野」自然体験ツアー

2014年8月23日、社会学部地域社会学科の学生たちが、新宿区環境対策課の「新宿の森・あきる野」自然体験ツアーにボランティアスタッフとして参加しました。新宿区では、東京都あきる野市に「新宿の森」を開設し、区民が参加する植林・下草刈り体験などを通じた環境学習と、地元の方々との地域間交流を目的としたツアーを実施。学生たちは早朝、新宿区役所を出発し、「新宿の森」に到着すると、準備体操をし、蜂よけネットを被り、大鎌の使い方など安全な作業のための指導を受けたあと、山の斜面で真剣に下草刈り作業に汗を流しました。また、大人班と子ども班に分かれて、ツアー参加者の誘導、作業中の安全管理や写真記録など、環境対策課の補助要員としてのミッションを遂行しました。作業後はネイチャーガイドの方の案内で山歩きと森林観察。地元食材を使った昼食と地元の方々との交流会。温泉で汗を流して「新宿の森」をあとにしました。



「新宿の森・あきる野」自然体験ツアー

芋の栽培と芋づるを使ったリース制作

人間学部子ども学科では、例年、専門教育科目の「子どもと自然I」「子どもと自然II」「保育内容演習(造形表現)」が連携して、芋の栽培と芋づるを活かしたリース制作を行っています。2014年5月24日、岩槻キャンパスの畑で芋の苗つけを体験。リーダー学生の指導の下、鎌の使い方、芋の苗つけ方などを学び、畦をつくり、苗つけをしました。収穫までは、2〜3週間ごとに計5回、交替で定期的に草むしりをしました。芋掘りは10月、11月に実施。新宿キャンパスでの芋掘りは、地元の保育園児と一緒に行いました。収穫された芋づるはリースに活かします。つるの葉をそぎ落とし、つるの巻き付け、洗浄、乾燥をへて土台が完成します。学内で拾った木の実をワイヤーで固定・装飾し、学生オリジナルのクリスマスリースが完成しました。12月に開催されたエコプロダクツ2014では、この芋づるリースの土台を使って、来場者にクリスマスリース制作体験をしていただきました。



芋掘り

学内資源の竹を活用した地域貢献

2014年9月11日、岩槻キャンパスで、「草細工体験」と「学内資源を活用した地域貢献一流しそめんと竹炭作り」(平成26年度「SPISチャレンジ制度」認定企画)を実施しました。岩槻キャンパス近隣の方々や実習等でお世話になる施設の方々へ呼びかけ、当日は平日にもかかわらず200名近くの方々に参加していただくことができました。「草細工体験」では、幅広い年齢層の方々に参加され、学生から作り方のアドバイスを受けながら、キーホルダーやコースターの制作を体験。学生や教員と賑やかなおしゃべりを交えつつ、作品作りを楽しんでいただきました。「流しそめん」は大人から子どもまで、キャンパス内の竹林の竹から作った約60メートルもの竹筒を流れるそめんを味わい、時々流れてくるミニトマトやうすらの卵など珍しい具材を箸でつまむことに夢中になっていました。使用後の竹は竹炭にし、希望者へお送りすることで、学内の資源をしっかりと有効活用しました。



流しそめん

COLUMN [コラム]

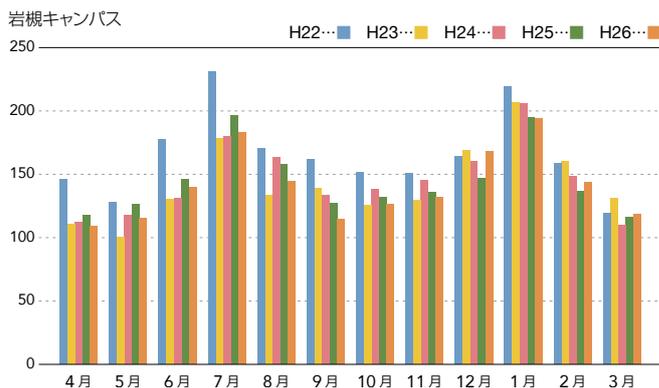
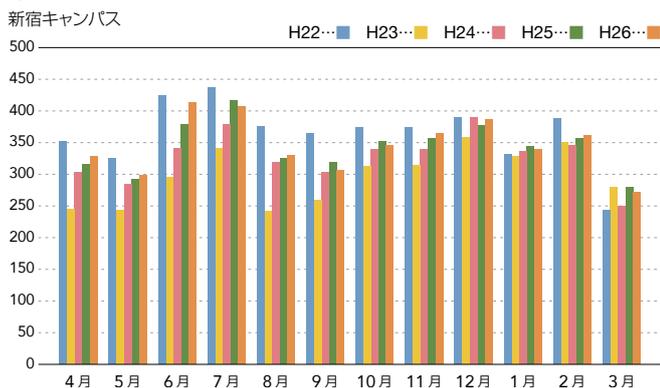
目白エコプロジェクトクルー(MEPC)

目白エコプロジェクトクルー(MEPC)は、目白大学学生会常任委員会(学生本部団体)の一つ。MEPC(メベックと読みます)は、学生のマナーや美化意識の向上、また地域社会との交流や連携に寄与すること、及び地球環境に配慮したエコ活動を企画し、学生のエコ意識の向上を図ることなどを目的として行動しています。オレンジ色のつなぎや緑色のパーカーを着て、新宿キャンパス及びキャンパス周辺のごみ拾いや清掃活動(とくに喫煙所など)に励んでいる姿をよく見かけます。またペットボトルキャップの回収や夏の打ち水活動なども行っています。

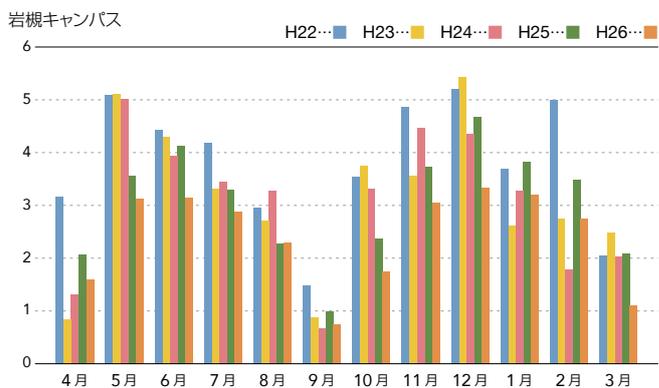
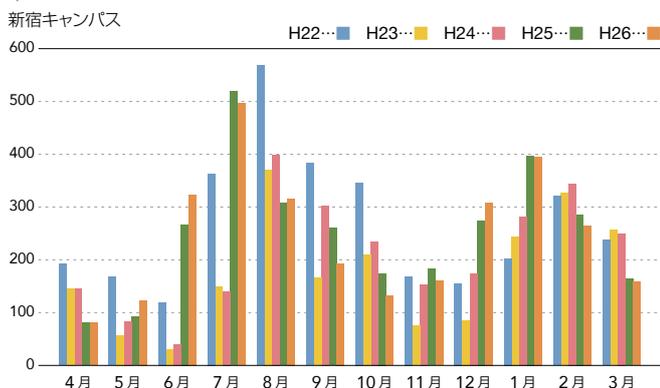


MEPCの活動

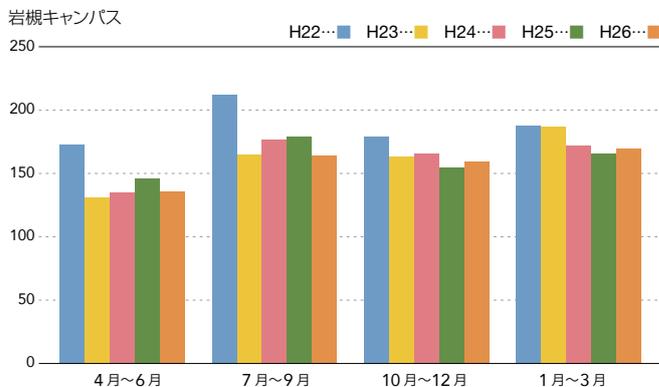
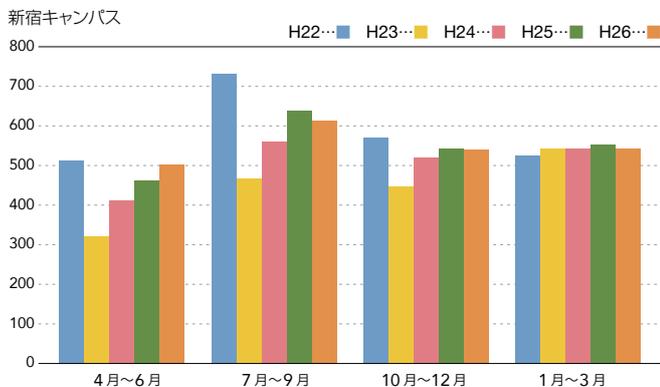
電気使用量 (単位:千kwh)



ガス使用量 (単位:百m³)



CO2排出量 (単位:t)



目白大学

■新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
 ■岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
<http://www.mejiro.ac.jp>

設置者	学校法人目白学園(尾崎春樹理事長)	
■目白大学	設立年	平成6年 目白大学設置
	学生数	5,954名(平成27年5月1日現在)
	設置学部・学科	人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科
	大学院	国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科
■目白大学短期大学部	設立年	昭和38年 目白学園女子短期大学設置(平成12年 目白大学短期大学部に名称変更・改組)
	学生数	404名(平成27年5月1日現在)
	設置学科	生活科学科/製菓学科/ビジネス社会学科



新宿キャンパス10号館



岩槻キャンパス1号館